

〔科目名〕 工 業 簿 記	〔単位数〕 2 単 位	〔科目区分〕
〔担当者〕 内藤 周子 Naito Shuko	〔オフィス・アワー〕 時間： 講義終了後 場所： 講義教室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 本講義では、おもに製造業で行われる工業簿記を学習する。製品の製造・販売を通じて利益を獲得する企業において、製造活動・販売活動によって生じる原価を記録・計算することは不可欠である。本講義では、工業簿記の基礎および、原価計算の意義・目的を理解し、原価計算における理論および計算手法について講義する。 基本的に、教科書にしたがって講義を進行する。また、実践的スキルを高めるために、適宜、電卓を用いて演習問題を解くこととする。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本講義においては、おもに製造業で行われる工業簿記を扱う。工業簿記に対して、商品売買で行われる簿記は、1 年次に開講されている「商業簿記」である。いずれも簿記上の取引を記録する点では同様である。工業簿記における記録を基礎とした原価計算の仕組みを理解することは、原価計算システムの構築や改善などを行う上で重要であるので学ぶ必要がある。 「会計学基礎論」で学んだ内容を基礎として、上述した「商業簿記」、理論を重視した講義である「財務会計論」を履修することが望まれる。また、本講義は、2 年次に開講される「管理会計論」を理解するうえで基礎となる知識を得ることができる内容を扱う予定である。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 最終目標は、原価計算の理論を学び、日商簿記検定 2 級工業簿記程度の知識習得である。 中間目標は、原価計算の目的を基礎とした理解を深めることである。企業外部の利害関係者への情報提供の点からは、財務諸表作成に必要な基礎データの提供が原価計算の目的となる。一方で企業内部の利害関係者への情報提供の点からは、①意思決定のための情報提供、②利益計画および業績評価のための基礎情報の提供、③原価管理のための基礎情報の提供が挙げられる。科目の目標に達成するためには、企業内部の利害関係者への情報提供の点を意識することが肝要である。なお、科目における目標の達成を測定するにあたり、工業簿記・原価計算に関する演習問題を行うため、講義の進捗状況によっては内容を変更する場合がある。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の「授業評価」から、学生の自習時間が少ないことが明らかになった。この授業では、予習や復習として、学生各自がテキストの問題を解くことを前提としている。これは授業の第一回で説明している。自由記載回答にあるとおり「例題も自分で解かないと身にならない」のである。自由記述回答として、授業プリントを配布されたことで助かったという意見があるので、授業の時間ではできるだけ多くの問題について理解できるように、さらに見やすくポイントを押さえたものに改良したい。また、授業の進み具合が早い、わからなくなると一気に置いてかれるという記述があるので、工業簿記の主要な内容を効率的に学ぶ方法を再確認したい。 今後も授業に対する意見や疑問に対して回答し、さらに学生の意見を取り入れながら授業の仕方や内容の改善に積極的に取り組みたい。		
〔教科書〕 高橋賢(2015)『テキスト原価会計 第2版』中央経済社。 岡本清・廣本敏郎編著(2024)『検定簿記ワークブック／2級工業簿記』中央経済社。		
〔指定図書〕 必要に応じて、適宜、案内する。		
〔参考書〕 岡本清(2000)『原価計算〔六訂版〕』国元書房。		
〔前提科目〕 なし。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 1. 課題 :30 点 2. 期末試験 :70 点 計 100 点 100 点満点で、スケールに基づき評価する。		

〔評価の基準及びスケール〕 80 点以上 :評価 A 70 点以上 ～ 80 点未満 :評価 B 60 点以上 ～ 70 点未満 :評価 C 50 点以上 ～ 60 点未満 :評価 D 50 点未満 :評価 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・ 学習意欲を高める工夫を行い、適宜、演習問題を活用して学生の理解度を確認して授業を進行する。 ・ 予習、復習において、教科書をよく読み、専門用語や概念などについて整理することをすすめる。 ・ 基本的な簿記一巡の手続きに関する知識を有している必要がある。 ・ 毎回必ず電卓を準備すること。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 原価計算の基礎 内 容: 企業が提供する製品やサービスの価格を決定する上で重要な原価計算について、その目的や原価の分類方法などを理解する。 教科書・指定図書 教科書第 1 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):原価の費目別計算(1) 内 容: 発生形態に応じて材料費、労務費、経費に分類する原価の費目別計算のうち、材料費について理解する。 教科書・指定図書 教科書第 2 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):原価の費目別計算(2) 内 容: 発生形態に応じて材料費、労務費、経費に分類する原価の費目別計算のうち、労務費と経費について理解する。 教科書・指定図書 教科書第 2 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):製造間接費の計算(1) 内 容: 製品との関連で間接的に発生する原価について、製品への原価の配分を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 3 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):製造間接費の計算(2) 内 容: 製造間接費の具体的な製品への配賦方法について理解する。 教科書・指定図書 教科書第 3 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):原価の部門別計算(1) 内 容: 原価を部門ごとに集計する部門別計算における第一次集計について理解する。 教科書・指定図書 教科書第 4 章, 第 5 章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):原価の部門別計算(2) 内 容: 原価を部門ごとに集計する部門別計算における第二次集計について理解する。 教科書・指定図書 教科書第 4 章, 第 5 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):個別原価計算 内 容: 受注生産に用いられる個別原価計算について、その意義や原価を集計する方法を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 4 章, 第 5 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):単純総合原価計算 内 容: 大量生産に用いられる総合原価計算における、その意義、計算の種類、完成品原価や月末仕掛品原価の計算方法を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 6 章

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):減損および仕損の処理(1) 内 容:工程途中で発生する減損費および仕損費に関する度外視法を用いた算定方法を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 7 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):減損および仕損の処理(2) 内 容:工程途中で発生する減損費および仕損費に関する非度外視法を用いた算定方法を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 7 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):工程別総合原価計算と等級別総合原価計算 内 容:複数の工程を経て製品を製造するとき, 完成品と月末仕掛品の原価について理解する。等級が存在する製品を製造するときの, 原価の算定方法を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 8 章, 第 9 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):等級別総合原価計算と組別総合原価計算 内 容:等級別総合原価計算における完成品と月末仕掛品の原価について理解する。製造工程が組ごとに分かれている製品について, 完成品と月末仕掛品の原価の算定方法を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 8 章, 第 9 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):標準原価計算 内 容:標準原価計算における標準原価を設定し, 実際原価との差異分析をすることで経営に役立てる特徴および記帳方法を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 10 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):直接原価計算 内 容:直接原価計算における利益測定の特徴および損益分岐点分析の基礎を理解する。 教科書・指定図書 教科書第 11 章
試 験	筆記試験